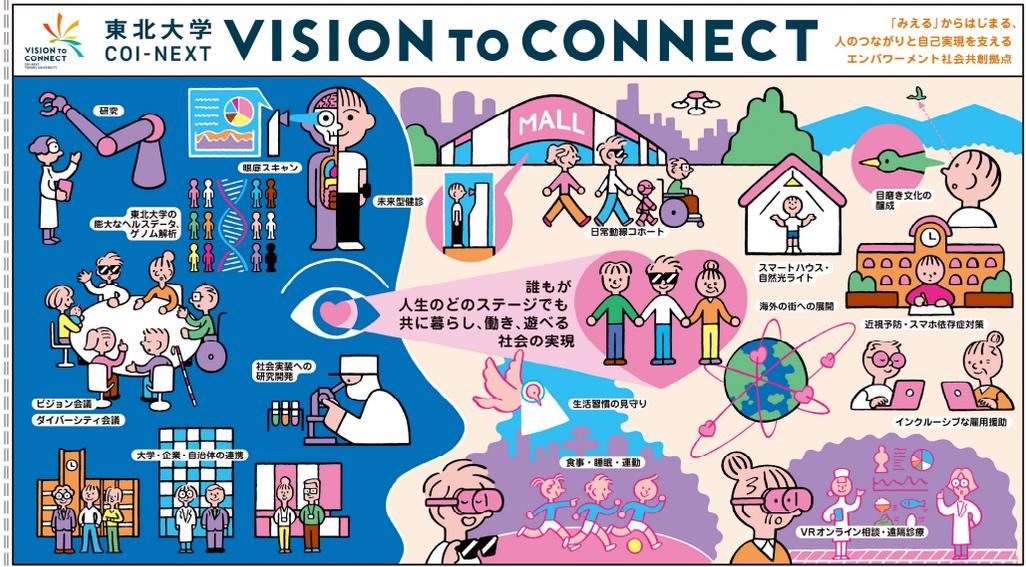


代表機関	東北大学	プロジェクトリーダー	中澤 徹 東北大学 大学院医学系研究科 眼科学分野 教授
参画機関	立命館大学、東京大学、お茶の水女子大学、東北文化学園大学、慶應義塾大学、東邦大学 第一生命保険株式会社、住友商事株式会社、イオン株式会社、ロート製薬株式会社、NECソリューションイノベータ株式会社、フォーネスライフ株式会社、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社、株式会社QDレーザ、株式会社トプコン、株式会社わかさ生活、参天製薬株式会社、ノバルティス ファーマ株式会社、株式会社仙台放送、株式会社Lively Up、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社日本眼科医療センター、株式会社トーマコーポレーション、ジャパンソウル半導体株式会社、株式会社トラストメディカル、日東メディック株式会社、わかもと製薬株式会社、興和株式会社、株式会社クリュートメディカルシステムズ、株式会社ハウディ、千寿製薬株式会社、あっと株式会社、公益社団法人NEXT VISION、Vixion株式会社、オムロンサイニックエクス株式会社、富谷市、仙台市、宮城県、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社トプコンメディカルジャパン、Wellier株式会社、SUNITED株式会社、株式会社ビーライン、カゴメ株式会社、大崎市、大崎市民病院、積水ハウス株式会社、株式会社ベネフィット・ワン、イオン東北株式会社		

プロジェクトの概要

10～20年後の未来のありたい社会像は、「次世代の子供たちに誇れる、誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働き、遊べることで、主体的に生き生きと暮らせる社会」である。我々は世界でも類のない「みえる」からはじまるエンパワーメントを特徴とした学際的なアプローチにより、グローバルな社会課題を世界に先駆けて解決しながら社会変革を推進していく。それにより、「みえる」を起点に様々な人の課題も解決する。具体的には、① **視覚障がい者**がテクノロジーなどを介して「みえる」ようになることで、自立して社会貢献し、QOLを高め人と社会とつながる、② **病気になるリスクを有する健常人**が、普段気付かない不調や悪化の兆候等が「みえる」ようになることで、将来の疾患を未然に防いでQOLを維持し、人と社会がつながる、③ **不調が原因で行動制限がかかる人**が、行動変容の継続に必要なことが「みえる」ようになることで、自己のモチベーション向上と他者とのコミュニケーション促進を通じてQOLを高め、社会とつながる。このようにして、「みえる」からはじまるエンパワーメントは、誰に対しても外界・社会からの情報を最適に取得・活用することを可能とし、**人とのつながりと自己実現**を達成させて**ダイバーシティにあふれるインクルージョン**を踏まえた、新たな社会を創造する最適解であると我々は考えている。

- 【ターゲット】
- (a) **ターゲット1：「できない」を「できる」にする情報格差ゼロ社会の設計**
情報格差ゼロ社会の設計を通じて、すべての人が受益者となるインクルーシブ・ユニバーサルな社会への変容を実現する
 - (b) **ターゲット2：目から全身の健康を管理する「みらいをなおすヘルスケア」の確立**
疾患を未然に防ぎ、フレイル（虚弱・脆弱性）から遠ざけ、「どうしてもっと早く気付かなかったのか」と後悔する人がいなくなる仕組みを社会に実装する
 - (c) **ターゲット3：身体機能拡張による自己実現とコミュニケーション変革**
エビデンスに基づいた効果的な動機付けを通じて、すべての人のモチベーション向上・コミュニケーション促進につながる、主体的な行動変容を起こす仕掛けを社会に実装する





「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点

COVID-19, DX, XR 「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメントによる、**誰もが人生のどのステージでも、共に暮らし、働き、遊べる社会の実現** COI, Moonshot, AMED

プロジェクトの活動範囲

ターゲット

- 課題 1 : 社会課題 身体機能低下による社会の分断
「できない」を「できる」にする 情報格差ゼロ社会の設計
- 課題 2 : 医療課題 早期発見/セルフケア
目から全身の健康を管理する 「みらいをなおすヘルスケア」の確立
- 課題 3 : 自分課題 自身の思い込みによる行動制限
身体機能拡張による 自己実現とコミュニケーション変革

研究開発課題

- | 研究開発課題 1 | 研究開発課題 2 | 研究開発課題 3 | 研究開発課題 4 |
|--|---|--|---|
| <p>「できない」を「できる」にする支援の仕組み開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中間目標 1 (3年目) 既存補助器具の活用拡大・インセンティブ設計とフィールド導入 ■ 中間目標 2 (5年目) 支援AI・ロボット・デバイス装置の開発 ■ PoC達成目標 1 (7年目) 10万人以上への情報提供 ■ 最終目標 (10年目) 神戸・仙台での実装とグローバル展開 | <p>目から全身の健康に挑む未来型健診と早期予防介入の仕組み開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中間目標 3 (3年目) 眼底検査から健診フィールドでのハイリスク群抽出アルゴリズム検証・デジタルコホート開始、自治体連携開始 ■ 中間目標 4 (5年目) PDSデータとの統合による精度向上 ■ PoC達成目標 2 (7年目) 心疾患・認知症の検知率10%向上 ■ 最終目標 (10年目) 健診モデルの普及拡大(>100施設) | <p>誰も後悔させない視機能維持の仕組み開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中間目標 5 (3年目) 商業施設への導入・簡易測定機器とアプリを活用した実態調査の開始 ■ 中間目標 6 (5年目) 測定の場の常設・運営、個別診断のPoC 取得、アジア拠点の設立準備開始 ■ PoC達成目標 3 (7年目) 緑内障の受診勧奨100% ■ 最終目標 (10年目) 病院以外のアクセスポイント50施設 | <p>意欲を最大化する行動変容の仕組み開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 中間目標 7 (3年目) 動体視力等の視機能向上に資する行動変容システムの基盤構築 ■ 中間目標 8 (5年目) 視機能改善のエビデンス構築 行動変容基礎システムの効果検証 ■ PoC達成目標 4 (7年目) システム構築により10万人の行動変容の経済効果の検証 ■ 最終目標 (10年目) 健康指数の改善と事業性・経済性を加味した行動変容システムとしての実装 |

拠点名称：「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点

代表機関：東北大学

プロジェクトリーダー：中澤徹(医学系研究科 教授)

研究開発課題1 「『できない』を『できる』にする支援の仕組み開発」の目標		年度
中間目標1	既存補助器具の活用拡大・インセンティブ設計とフィールド導入	2024
中間目標2	支援AI・ロボット・デバイス装置の開発	2026
PoC達成目標1	10万人以上への情報提供	2028
最終目標	神戸・仙台での実装とグローバル展開	2031
研究開発課題2 「目から全身の健康に挑む未来型健診と早期予防介入の仕組み開発」の目標		年度
中間目標3	眼底検査から健診フィールドでのハイリスク群抽出アルゴリズム (全身疾患予測アルゴリズム) 検証・デジタルコホート開始・検査コラボモデルやヘルスケアサービスの開発、自治体連携開始	2024
中間目標4	PDSデータとの統合による精度向上・収益化・疾病リスク低減メニュー開発	2026
PoC達成目標2	心疾患・認知症の検知率10%向上・健保組合向けビジネスへ導入・高度化	2028
最終目標	健診モデルの普及拡大 (100以上の施設) ・個別化介入・導入自治体の拡大 (未来型健診の実現) ・アジア圏展開・眼底写真を活用した新たな保険商品組成	2031
研究開発課題3 「誰も後悔させない視機能維持の仕組み開発」の目標		年度
中間目標5	商業施設への導入 (コホートセンター設置) ・簡易測定機器とアプリを活用した実態調査の開始・眼の健康チェックサービス基盤事業化	2024
中間目標6	測定の場の常設・運営、個別診断のPoC取得の本格稼働、アジア拠点の設立準備開始	2026
PoC達成目標3	コホートセンター利用者への緑内障の受診勧奨100%、アプリ追跡による受診率50%	2028
最終目標	病院以外の「気づきの場」のアクセスポイント50施設、オンライン診療含む高度な測定の場5施設 (国外含む)	2031
研究開発課題4 「意欲を最大化する行動変容の仕組み開発」の目標		年度
中間目標7	動体視力等の視機能向上に資する行動変容システムの基盤構築	2024
中間目標8	視機能改善のエビデンス構築、行動変容基礎システムの効果検証	2026
PoC達成目標4	システム構築により10万人の行動変容の経済効果の検証	2028
最終目標	健康指数の改善と事業性・経済性を加味した行動変容システムとしての実装	2031

拠点名称：「みえる」からはじまる、人のつながりと自己実現を支えるエンパワーメント社会共創拠点
代表機関：東北大学
プロジェクトリーダー：中澤徹(医学系研究科 教授)

研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	最終年度
1. 「できない」を「できる」にする支援の仕組み開発	既存補助器具の活用 拡大・インセンティブ設計とフィールド導入		中間目標 1	支援 AI・ロボット・デバイス装置の開発	中間目標 2	10万人以上への情報提供	PoC達成目標 1	神戸・仙台での実装とグローバル展開		最終目標 情報格差ゼロ社会の設計
2. 目から全身の健康に挑む未来型健診と早期予防介入の仕組み開発	眼底検査から健診フィールドでのハイリスク群抽出アルゴリズム (全身疾患予測アルゴリズム) 検証・デジタルコホート開始・検査コラボモデルやヘルスケアサービスの開発・自治体連携開始		中間目標 3	PDSデータとの統合による精度向上・収益化・疾病リスク低減メニュー開発	中間目標 4	心疾患・認知症の検知率10%向上・健保組合向けビジネスへ導入・高度化	PoC達成目標 2	健診モデルの普及拡大 (100以上の施設) ・個別化介入・導入自治体の拡大 (未来型健診の実現) ・アジア圏展開 ・眼底写真を活用した新たな保険商品組成		最終目標 「みらいをなおすヘルスケア」の確立
3. 誰も後悔させない視機能維持の仕組み開発	商業施設への導入 (コホートセンター設置)・簡易測定機器とアプリを活用した実態調査の開始・眼の健康チェックサービス基盤事業化		中間目標 5	測定場の常設・運営、個別診断のPoC取得、アジア拠点の設立準備開始	中間目標 6	緑内障の受診勧奨100%、アプリ追跡による受診率50%	PoC達成目標 3	病院以外のアクセスポイント50施設 オンライン診療含む測定場5施設 (国外含む)		
4. 意欲を最大化する行動変容の仕組み開発	動体視力等の視機能向上に資する行動変容システムの基盤構築		中間目標 7	視機能改善のエビデンス構築 行動変容基礎システムの効果検証	中間目標 8	システム構築により10万人の行動変容の経済効果の検証	PoC達成目標 4	健康指数の改善と事業性・経済性を加味した行動変容システムとしての実装		最終目標 自己実現とコミュニケーション変革

ターゲット1の実現

ターゲット2の実現

ターゲット3の実現